

韓竈神社

からかまじんじゃ

韓竈神社駐車場より杉木立の中を800メートルほど進むと、右側に鳥居が現れる。鳥居をくぐり、急勾配で大小不揃いの自然石の石段を300段ほど登る。幅45センチほどの巨岩の隙間を通り抜けると岸壁に囲まれた社がひっそりと鎮座する。



韓竈神社入口鳥居

1. 鎮座地：出雲市唐川町後野408

2. 祭神：素盞鳴命すさのおのみこと

3. 例祭：11月3日

4. 由緒：出雲國風土記(733年)には、韓からかまの銚社、

延喜式神名帳(927年)には、韓竈神社と記載されている。江戸時代には、智那尾権現と呼ばれていた。社名のカラカマは、朝鮮半島から渡来した釜を意味するとされている。祭神の素盞鳴命が、新羅に渡られ、わが国に植林法やタタラ製法、鍛冶技術などの鉄器文化を伝えたと言われ、カラカマのカマは、溶鉱炉を意味するとも言われる。また、韓竈神社が鎮座する岩窟は、銅鉱石を採掘した穴だとの説もある。素盞鳴命が新羅に渡られた時に乗られた船だと言われる大岩が、神社の登り口付近にあり、明治時代には岩船神社とも呼ばれていた。



素盞鳴命が乗られた「岩船」



幅45cmの岩の隙間の参道



出雲国風土記の自然と歴史に出会う大地

島根半島・宍道湖中海(国引き)
ジオパーク推進協議会

歴史ともみじと港のある町わにぶち

鰐淵コミュニティセンター

◆お問合せ先：〒691-0025 島根県出雲市河下町720-1
TEL(0853) 66-0001 FAX(0853) 66-0059



韓竈神社拝殿

5. 拝殿：韓竈神社の拝殿は、唐川の集落の中、お茶の里唐川館の近くに設けられており、祭典等は拝殿で執行される。

6. 神楽：唐川には神楽が伝承されており出雲市指定無形民俗文化財に指定されている。韓竈神社例祭に隔年で奉納される。

7. 韓竈神社周辺の黒鉱鉱床：韓竈神社周辺には海底火山によってつくられた緑色凝灰岩が広く分布している。この海底火山活動によって形成された黒鉱鉱床からは銅や石膏、黄鉄鉱、閃亜鉛鉱、黄銅鉱、方鉛鉱が採掘され、かつては地域の主要な産業であった。この神社周辺には、金堀り地区の地名や自然銅、野タタラ跡があり古くからの産銅地帯として知られる。



黒鉱

8. 鰐淵寺の縁起の中での韓竈神社：鰐淵寺を開いた智春上人ちしゅんしょうにんを3人の老翁が船で出迎えた。3老翁は、唐川の智那尾権現ちのおごんげん、別所の白瀧権現しらたきごんげん、旅伏山の旅伏権現たぶしごんげんであった。3人は、智春上人を鰐淵寺の地に案内した後、乗っていた船の船具を分配した。韓竈神社（智那尾権現）には、船の舳先「岩船」が、諏訪神社（白瀧権現）には帆柱「帆柱岩」が、旅伏山（旅伏権現）には船の帆「帆筵岩」がそれぞれ現存していたが、帆柱岩は、地滑りのためなくなった。



唐川神楽

文政8年に始まったとされる神楽で秋まつりに奉納される。

◆ わにぶち観光マップ ◆



お茶の里唐川館

5月最終日曜日の「新茶まつり」には多くの人々が訪れる。